

平成11年度公共用水域等のダイオキシン類調査結果について

環境省環境管理局水環境部水環境管理課
課長補佐 横田 敏宏

1. 組織の概要

本調査は、水環境中におけるダイオキシン類の実態を全国的に把握し、環境基準検証等に必要な知見の集積を図るため、平成10年度ダイオキシン類緊急全国一斉調査に引き続き、公共用水域の水質、底質、水生生物及び地下水質について調査を行ったものです。

なお、一級河川・直轄区間については建設省が調査を分担し、環境庁が行った調査とあわせて、集計しています。

2. 調査結果

1) 公共用水域水質

568地点で調査を実施しました。ダイオキシン類濃度の平均値は0.24pg-TEQ/lで、平成10年度調査結果(平均0.40pg-TEQ/l)より低く、濃度範囲は0.054~14pg-TEQ/lで、平成10年度調査結果(0.0014~13pg-TEQ/l)とほぼ同じ程度でした。また、環境基準(1pg-TEQ/l)を超過したのは10地点(全体の1.8%)でした。

2) 地下水質

296地点で調査を実施しました。ダイオキシン類濃度の平均値は0.096pg-TEQ/lで、平成10年度調査結果(平均0.081pg-TEQ/l)と同程度であり、濃度範囲は0.062~0.55pg-TEQ/lで、平成10年度調査結果(0~5.4pg-TEQ/l)の範囲内であった。また、環境基準値(1pg-TEQ/l)を超過した地点はありませんでした。

3) 底質

542地点で調査を実施しました。ダイオキシン類濃度の平均値は5.4pg-TEQ/gで、平成10年度調査結果(平均7.7pg-TEQ/g)より低く、濃度範囲は0.066~230pg-TEQ/gで、平成10年度調査結果(0~260pg-TEQ/g)の範囲内でした。

4) 水生生物

543地点2,832検体で調査を実施しました。ダイオキシン類の平均値は1.4pg-TEQ/gで、平成10年度調査結果(平均2.1pg-TEQ/g)より低く、濃度範囲は0.032~33pg-TEQ/gで、平成10年度調査結果(0.0022~30pg-TEQ/g)とほぼ同じ程度でした。

3. まとめ

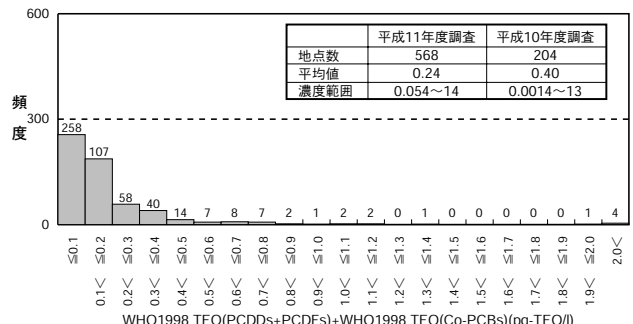
本調査は、平成10年度調査と比較して、環境基準点を中

心に調査地点・検体数を大幅に増やして実施しました。

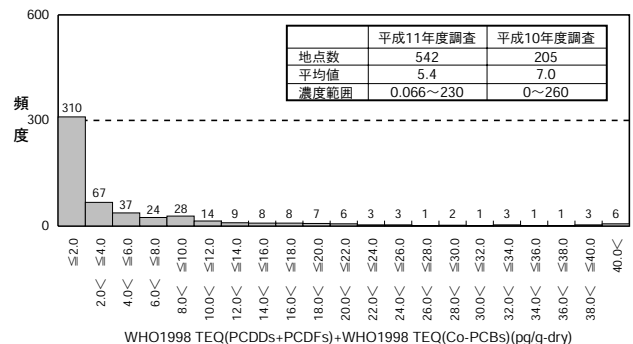
各環境媒体毎のダイオキシン類濃度の平均値は、平成10年度調査の平均値に比べ低くなりましたが、これは調査地点数の増加による影響もあると考えられますので、両年度の平均値の比較をもって経年変化を論ずることはできないと考えます。

一方、各環境媒体ごとの検出値の範囲は、調査地点・検体数の大幅な増加にかかわらず、概ね平成10年度調査結果の範囲内でした。

なお、ダイオキシン類に係る環境監視は、平成12年度以降、ダイオキシン類対策特別措置法に基づいて、都道府県・市による常時監視に引き継がれることとなっています。



公共用水域水質



公共用水域底質